



【幸いな家庭】

聖書:雅歌書2章10-15節(旧約聖書)/ 暗唱:イザヤ書58章11節
「私たちのために、ぶどう畑を荒らす狐や子狐を捕らえておくれ。」

説教者:鄭南哲牧師
(Rev.Jung nam-chul)

愛する信仰の家族のみなさん! 一週間も主の平安のうちにお元気でしたか。

神様は全ての方が祝福され、幸せな日々をおくる事が出来るように、家庭を与えて下さいました!

聖書では涙と空しいこの地上で我々が小さな神の御国と神の祝福をあらかじめ、そして実際に体験出来るように、家庭を許してくださいましたと聖書は教えて下さったことが分かります。旧約の雅歌書では、特に夫ソロモンと妻シュラムの女との愛をとおして神様からの愛を描写し、その家庭をぶどう畑によく例えて教えて下さっています。

我々に自分たちのぶどう畑(家庭を意味)を預けて下さいました。この地上に住んでいる間、しばらくだけ預けて下さったのです。ぶどう畑(家庭を意味)を預けて下さった神様は我々がそれをちゃんと管理いくことを願っておられます。ぶどう畑を預けて下さった方は神様です。しかし、そのぶどう畑を守り、よく管理するのは私たちの分です。

何よりもかわらず、他人のぶどう畑をうらやましがらないで下さい。他人が受けている分をうらやましがらないで下さい。神様が自分たちに預けて下さったぶどう畑、家庭に感謝して下さい。我々はほかのぶどう畑から出る良い香りや極上品(ごくじょうひん)ぶどうを見ながら、うらやましがり、守らなければなりません。我々はほかのぶどう畑から出る良い香りや極上品(ごくじょうひん)ぶどうを見ながら、うらやましがり、比較しながら悩む時もあります。神様が我らにあずけて下さったぶどう畑に実が結ばれなかったり、ぶどう畑が荒らされたなら、それはぶどう畑の問題ではなく、ぶどう畑を守り管理するのに間違った責任が我々にあることを知らなければなりません。

ところが、今の時代は幸福な家庭や平凡な家庭がむしろ不正常的に思われている時代であることをご存知ですか。最近このような統計をみたことがあります。1960年代のアメリカでは100家庭の中で25家庭が離婚をしました。70年度には100家庭の中で約40家庭が離婚をする趨勢(すうせい)を表しました。80年代に入ってから約50家庭がつまり、結婚する夫婦のなかで半分が離婚する趨勢を表しました。ところが、最近離婚率がすこし、減ったということで、アメリカの保守的傾向がもう一度、よみがえられているととても喜んでいましたが、それは事実ではありませんでした。今になっては、若い者たちは正式に結婚した夫婦の形ではなく、籍にも入れないで、ただ、同居(どうきよ)している者たちが増えたからという分析がもっと正しいと思います。

現在、日本もそのような趨勢でいると聞いております。

何年前か、アメリカL.A.のある宝石の店からL.A.タイムズ新聞に“結婚の指輪を貸し出します!”という広告を出しました。これは何を意味しますか。結婚の指輪を貸してあげるということつまり、結婚生活が長くないので、わざわざ高い結婚の指輪を買う必要ではないという最近の結婚に対する端的な現象と理由だったからです。適当に借りて持っていて、いざとなったら、返せばいいという考えから出た発想(はっそう)なんですね。夫婦も、家庭もいざ何か問題があれば、いくらでも分かれてまた結婚すればという考え方が蔓延している時代の中で生きているのです。

これから我々の家庭が一層幸せに、祝福されて行くために我々はどうするべきでしょうか。今日は、果たして何が、今日の家庭を揺れ動かし、破壊しようとしているのか聖書の雅歌書をとおして、今日はみなさんとともに探してみたいと思います。

<1. 雅歌書>

雅歌書は神様と神様の民との関係を讃える美しい詩が記録された御言葉です。特に夫ソロモンと妻シュラムの女との愛をとおして神様からの愛を描写(びょうしゃ)しています。そして、雅歌書は神様との愛のみならず、具体的に我々の家庭、夫婦、主の教会がどうやって愛し合い、そして危機を乗り越えていけば良いのかをよく表し教えて下さっている御言葉でもあります。

先ほどの話のように、今日の本文でぶどう畑は愛の関係、愛の巣である家庭をたとえられていると考えられます。おそらく、この二人はふっと自分たちの愛の関係において危機がやって来ていることを気づき始めたようです。そういうわけで、彼らは愛する夫婦関係、家庭を守らなければならない必要性を実感しています。そういうわけで、ソロモンとシュラムの女は我々の家庭を崩そうとしている狐を捕らえようと警告しているのです。

<2. ぶどう畑(家庭)の破壊者である狐らが攻撃する時:物事がうまく行く時こそ、油断してはいけません!>

みなさん! 実際にパレスティンの荒野には狐たちが住んでいます。この狐たちは大きいものでもなく、小さな小狐だです。ですからそんなに目立たないかも知れませんが、あんなやつらで我々のぶどう畑に何をするのか軽く考えこんでしまう時があるかも知れません。しかし、小さいと思って油断してはいけません!

この小さな小狐たちこそ、イスラエルにおいてもぶどう畑を荒らし、実った実を奪い取り苦しませる存在だからです。

収穫を迎えているぶどう畑を荒らし、ぶどうの木の根をかじりとってしまう破壊者がまさにその小さな狐たちでした。ところが、この狐たちが一番活発に動く時期がぶどうの花が咲いた時期(物事がうまく行く時、油断しやすい時)だそうです。愛の花が咲き、愛の実が結ばれているその時期に、それを狙い小狐が猛烈に攻撃してくるということです。

今日の本文15節を読んでみると、狐が一匹ではありません。**ヘブル語の原文や英語の聖書を見ると複数である、“狐たち”**に表現されているし、**“小狐たち”**だと表現されています。つまり、**ぶどう畑を荒らす小狐たち**ということです。

愛する信仰の家族のみなさん！我々は私たちの愛、私たちの家庭は決して変わらず、保たれると思っているのではありませんか。しかし、今日の御言葉は我々の愛、我々の家庭にも危機がやってくることもありうることを警告しています！時々、私たちの家庭を破壊する原因は大きな出来事ではありません。とつても些細(ささい)なことが家庭を崩壊する原因となることを覚えなければなりません。物事がうまく行く時、我々は油断してしまう時があります。ぶどう畑を守るものがあれば、荒らすものがあります。神様はぶどう畑を荒らす小狐たちを捕らえておくれと命じられています。我々は我らのぶどう畑を荒らすために虎視眈々(こしたんたん)狙っている小狐らがいることを忘れてはいけません。油断してはいけません。ここに関心を持たなければなりません。

すると私たちの愛と家庭の幸福を脅かす子狐たちは何でしょうか。いろいろあると思いますが、今日は二つだけ考えて見たいと思います。**みなさん！今日の聖書本文の御言葉にもう一度注目してみましょう。小狐がぶどう畑を荒らすときはいつでしたか。それはぶどう畑に花が満開(まんかい)していた時でした。今日の本文雅歌書2章12-13、15節をもう一度ご覧ください。**
「12地には**花が咲き乱れ、刈り入れの季節がやって来て、山鳩の声が、私たちの国中に聞こえる。13いちじくの木は実をならせ、ぶどうの木は花をつけて香りを放つ。わが愛する者、私の美しいひとよ。さあ立って、出ておいで。15『私たちのために、あなたがたは狐を捕えてください。ぶどう畑を荒(あ)らす小狐を。私たちのぶどう畑は花盛り(はなざかり)ですから。』**」

花盛りで、借り入れの季節です。花は美しいし、香りを放ちます。何の問題もなく、安心して平穏で、物事がうまく行き、必要が満たされている時、安心して、勇断しやすいの時でした。

我々の人生に花が咲く時があります。花が咲くということは実を結ぶためです。ところが、実を結ばせる前に花だけをみてぶどう畑を荒らす小狐にあいます。問題は人生に花が咲き、願っていた通り順調で、手に入れることが出来満たされている時、人はぶどう畑の扉を開いて、人々に見せたくくなります。自慢しくくなります。そのときに、ぶどう畑を荒らす小狐もやってくる時であることを忘れてはいけません。**油断は高慢から来ます。高慢な人の特徴は聞く耳を持たないことです。ぶどう畑を管理する人の大事な心構えは謙遜な心です。謙遜な人は自分の足りなさを知っているために、いつも目覚めています。自分の限界を知っているために、神様を信頼し、頼ります。祈り続けます。小さいアドバイスにも耳を傾けます。謙遜な人は豊かに実を結ぶまで油断しません。**

愛する信仰の家族のみなさん！今美しく花が咲いている時こそ、そのお花に満足しないで下さい。すべてのことが自身の思うとおりに物事がうまく行く時こそ、安心してはいけません。注意しなければなりません。**我々は実を結ぶために召された者です。いつも目を覚ましていなければなりません。**神様は我々に花を咲くようにとわれませんでした。神様は我々に実を結ぶようにと命じられました。ですから、もうこれで良いだろうと思ひ込まないで、神の御前で神様との関係、御言葉と祈りの生活などいつも点検し、自身の中で悪い習慣や罪の誘惑などに油断せず、自身の身も信仰も守りつつ気をつけ処理してしなければなりません。

<①ぶどう畑(家庭)の破壊者である狐たち:劣等感>

小狐たちはいろんな事を意味すると思いますが、その中家庭の幸福を脅かす原因の一つは**劣等感**だと考えられます。雅歌書1章では教えて下さっています。**1章5節をみてください。「エルサレムの娘たち。ケダルの天幕(てんまく)のように、ソロモンの幕のように、私は黒いけれども美しい。」**ここで、「ケダルの天幕」は何ですか。イスラエルにいくと、ベドウィンという遊牧民(ゆうぼくみん)たちが住んでいる天幕があります。その古い天幕をかぶっている黒い屋根(やね)みたいな物がケダルの天幕です。ソロモンの妻このシュラムの女は自分の外見に深い劣等感を持っていたようです。**黒いけれど自分の美しいと強調しているのは自分の劣等感を覆いかぶせるために叫んでいることです。次の6節をみてください。「あなたがたは私を見ないで下さい。私は日に焼けて、浅黒(あさくろ)いのです。」**と言っています。彼女は自分の黒い姿に劣等感と自信感がないように見えます。

今日も年齢層男女関係なく、“どうして自分はこんなにぶすなのか。自分の体はどうしてこんなのか。”身体的な劣等感、外見的な劣等感のため自分は他の人のように出来ないと自身に対して意外と自信を持ってない人が多くいらっしゃいます。

例え)私は個人的にSNSをやってませんが、昨年あるテレビ番組でSNS上で若者の中で「親ガチャ」という言葉が流行(りゅうこう)している内容を興味深く見たことがあります。みなさんはこの「親ガチャ」ってどういう言葉の意味は何なのかご存じでしょうか。

「親ガチャ」とは、若者の中で、自分で親を選べないという境遇に生れるか運任せという不満の表現の意味で、何が出るかわからないカプセル式おもちゃに例えた言葉です。生まれた時から親は選べない親と仲が悪く、親に嫌なことされると簡単に仕える「親ガチャ」ってSNS上で書いちゃう言葉でした。「親ガチャの失敗」で、顔や皮膚、身長などの体系が親に似たなあ〜とかで主に親への不満を「親ガチャ」という言葉にすがるといことです。もちろん、社会的な格差や不公平さのための不満のあると思いますが、自身の劣等感を親のせいにながら、諦めようととても残念なことだと私は思っております。

このように自分自身“私はどうしてこんなパパを、こんなママから生まれたのか。”自分自身の外見や不器用(ぶきよう)に対する劣等感を、今日の子どもたちの中では自身の親と家族に対する劣等感に拡大(かくだい)している場合が多くあります。自身の劣等感を、このような家庭に対する、親に対する、自分の妻に対する、自分の夫に対する、自分の子どもたちに対する劣等感までつなげさせ、いろんな劣等感に捕らえられて家族同士(どうし)でお互いに傷つけ合い、共に苦しんでいる家庭が実はどれほど多いのかわかりません。結局、その劣等感の影響により、家庭が崩されるだけではなく、さらに大げさに今日家庭を超えて、周り人々や関係のない社会の人々にまでそのせいにながら被害を与え、最終的には大切な自身の人生をも諦めようとする事件が相(あい)次いでいるのではありませんか。

私は、「家系(かけい)に流れる呪い(メリリン・ヒキなど日本のある教会で言われる)」を主張する神学に完全反対で、健全な聖書的信仰ではないと思っています。イエスキリストを心から信じた者たちには決して罪の呪いの縛りから完全に開放され、罪に定める者はそれ以上ないと約束されているからです。(ローマ8章1「**今や、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。**」、34、38-39節、**ガラテヤ3章13節「キリストは、ご自分が私たちのためにのろわれた者となることで、私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました。「木にかけられた者はみな、のろわれている」と書いてあるからです。」**)
なぜなら、イエスキリストご自身が我らの代わりに、すべての罪の呪いと代価を受け、支払って下さったからです。

しかし、このような人の弱さの劣等感の問題を油断してしまい、自身や愛する家族にこれ以上悪影響させ、苦しませることはないように管理しなければなりません！結局、劣等感はそれによって今自分に与えられている自分のぶどう園がどれほど、大切に、美しく、相応しいものなのか見逃してしまい、お互いに苦しみ合っている家庭の姿はみなさんにはないでしょうか。

この劣等感を乗り越えない時、私たちは不必要な自己防御(じこぼうぎょ)をし始めます。自分の弱点を人にさらけ出したがる人はたれもいません。ですから自分を守るために必要以上に自分をほめるか、さげるか、本当の自分ではない自分を表すためのショをします。あるいは、ほかの人に度を過ぎるほど否定的に話し、告発、さげすむ人たちも、実は心の奥底に深い劣等感が根付いているからです。人間関係が円満でない人々の意識の深層を分析してみると、彼らの考えの底には解消(かいしょう)されない劣等感の孤独に捕らわれていることをみることができます。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！劣等感による傷の最善の治療策は何だと思われますか。他はありません。比較しないで、させないで、そして、攻めないで、夫婦の中、家族の中で励まし続け、ほめることしかありません。劣等感に触らないで下さい。自分の傷が暴露(ばくろ)される時、感じる自分に対する怒りと挫折(ざせつ)感によって、さらに自分の生活はバランスが崩れ、普通の家庭、夫婦生活すらできなくなる危険性があります。
みなさん、**家庭の祝福**は何でしょうか。**家庭内では自分の劣等感が守られます。自分の弱点をだれより自分がよく知っています。もちろんほかの人々もよく知っています。きっと知らないだろうと思わないで下さい。それにもかかわらず、自分の家庭では比較されなくて、自分の劣等感、弱点、弱さが守られるということです。**自分の家族が自分の劣等感や弱点をよく知っていて、自分のあやまちを知っているのにもかかわらず、彼らは自分を守ってくれる、自分の見方になってくれる、自分を愛しているという事実が家庭に与えられている事が祝福ではないでしょうか。

自分の家庭ですら、自分が理解されていないのであれば、これこそ悲しいことがあるでしょうか。外ではいくら人々から比べられ、非難を受けても、みなさんの家庭で、妻や夫、家族だけ一番愛している人々から、理解されているかぎりはだれもみなさんのぶどう園の幸福を奪うことはできません。どうでしょうか。みなさんはどれだけみなさんの家庭でこの劣等感に対して比べられず、励ましを続けて受けているでしょうか。

今日の聖書の雅歌書が続けて読んでみると、今日本文に出て来るソロモン王の妻シュラムの女は、自分を惜しみなく愛してくれる夫がいるのにも関わらず、自分の外見に深い劣等感を持っていました。それにもかかわらず、ソロモン王はどれだけ妻の外見をほめているでしょうか。それも一度だけでなく、なんどもほめ続けています。一度だけでなく、何度も繰り返されていることを覚えましょう。“女の中でもっとも美しい女よ。あなたの目はこうだから美しい、あなたのおへそすら美しい、…”
実際にはシュラムの女はソロモン王が惚れて、すべての愛を受けていたとても幸いで愛らしく美しい女だったのに、それに対する

感謝も、幸福の価値も感じていません。シュラムの女を本当に愛していたソロモン王はシュラムの女の黒さが黒く見えるより、彼女の姿すら他の人よりもっと美しく見えたはずなのに、彼女は他の皮膚がきれいな女たちと比べるのをやめられなかったため、残念ながら、今彼女に与えられている家庭の祝福と幸福を味わうことが出来ませんでした！

劣等感に捕らわれず、今神様から与えられている潤うされ、実が結ばれているぶどう畑中にある家族とともに感謝しつつ、生きるためには、今のみなさんの夫を、妻を、子どもたちを比べることをやめることから劣等感から守られ、克服されて生けると信じます。

そして、愛するみなさん！聖書は我々が互いに認め合い、励まし、あたたかく、親切であるようにと教えています。パウロをとおして記録された聖書の本文に一番登場(とうじょう)する単語の一つが“**互いに**”という表現です。

“互いに忍び合い、互いに愛し合いなさい”、“互いに立て上げ”、“互いに赦し合いなさい。”

自分が持っている劣等感のためどれだけ自分たちはふらつかされるのでしょうか。

神様が一人では解決が難しい我々の劣等感の処方(しょうぼう)として、家庭(家族)を与えて下さったのです。自分が劣等感に捕らわれ、自分の存在を惨めに考えられないように愛する家族の愛と励ましによって、お互いの劣等感がいやされ、克服できるようにと家庭を許して下さったこの神様の祝福とともに忘れないようにしましょう。

聖書にはどうして“**あなたがたの子どもを怒らせてはいけない。**”という御言葉がたびたび出ているかご存知ですか。

子どもたちの自我像は、実際、自分たちが作っていくのではなく、親が子どもにどうやって接して、そだったのかにかかっています。

“おまえはなにができるの。まじで、馬鹿(ばか)ではないか。この世で何の役にも立たない者になるぞ。”という話を聞きながら育てられた子どもたちは成長して行くうちに、自分は本当に何もできない者であり、認められてない人であり、何の役にも立たない者だと思ひ込み、自信をなくしてしまう者になると思ひます。

みなさんは最近、息子、娘たちにどんな賞賛をした覚えがありますか。どんなに、子どもたちが友達に無視され、学校で認められていないとしても、“私のママ、パパは私を認めてくれる。愛してくれる。”という事実を知っているかぎり我々の子どもたちは何とか力強く、知恵を持って成長して行くと思ひます。(本日の信仰教育の重要性についてコラム参考)

そして、実際の夫の自我像は妻が作るのです。妻が夫にどうやって接したのかにかかっています(夫:かしら役割-妻:首役割)。反面、妻の自我像は妻自身が作るのではなく、夫がどうやって妻に接しているのかにかかっています。それによって妻の自我像は決まります！

みなさん、エルサレムに行くときエルサレムの城(しろ)のすぐ外にヒンノムという谷があります。ここは昔、旧約時代に子どもたちを燃やして偶像の神々にいけにえとしてささげた暗いところだったので、その後、ただゴミをもやしたところで、歴史的に汚染された谷でした。しかし、イスラエルは独立した後、イスラエルの一番大切な国家的な行事をこのヒンノムの谷で行ったそうです。その理由はそれほどきかない、みずぼらしかった谷がこれほど美しく変えられると言う事実を表すためだったそうです。愛する信仰の家族のみなさん！人の短所ということはどうのように見るかによって長所にもなれるのではないのでしょうか。それほど人間は相対的(そうたいてき)な存在ではないかと思ひます。問題は我々がどんな眼識(がんしき)で我々の弱点や人の弱点を自覚し、見ているのかということです。ですから、劣等感がこれ以上我々の家庭を揺さぶらないように警戒していきましょう。

<②ぶどう畑(家庭)の破壊者である狐たち:孤独と無関心>

最後に、家庭を揺さ振る子狐たちのもう一つは**孤独と無関心**ではないかと思ひます。この二つは関連があるので、一緒に考えて見たいと思ひます。3章1節を見るとこのような告白をします。

「私は夜、床(とこ)についていても、私のたましいの恋い慕う方を捜していました。私が捜(さが)しても、あの方は見つかりませんでした。」

夫ソロモンはある日、ふっと自分が一人で取り残されている事に気づかされます。もちろん、具体的な状況は記録されていないので分かりませんが、問題は家の中自分が一人であることを気づいたことです。家庭内での孤独です。ところが、家庭というのは人間の孤独に対する処方(しょうぼう)として、神様から一に与えられたプレゼントではないでしょうか。それなのにもかかわらず、私たちは時々、家庭内ですら、寂しく、孤独を感じてしまうときがあるでしょう。この矛盾が現代家庭の妻たち、夫たち、子供たちを揺(ゆ)さ振(ぶ)っているのです。**寂しいのに、そのまま置いてしまうと大切で、親密な関係が疎遠になり、家庭にひびが入ってしまいます。**

孤独を乗り越えるにはほかの方法はないでしょう。一緒にいること、共にすること以外にはほかはないと思ひます。

これは空間的な意味だけではありません。しかし、私たちがほかの人々と一緒にいることで孤独が解除(かいじょ)されることでもありません。自分のまわりに人が多くいるのにもかかわらず、とても孤独を感じる時もあるのではないのでしょうか。群衆の中での孤

独という言葉のようにです。ただ、同じ空間に一緒にいることではなく、夫婦が本当に心から一緒にいること(第一ペテロ3:7「夫たちよ、**妻が自分より弱い器であることを理解して**妻とともに暮らしなさい。」)を強調しています。

子供が小さい頃、子供がなにか話そうとすると親は、“うるさいな、邪魔しないで、一人にさせてくれ。”と言います。

子供たちが大きくなって行きます。何か問題があります。今や親が子供たちに“おまえ、なにか問題があるのか。話してみなよ。”すると、子供たちはこう言わないでしょうか。“おれもほっといてよ。”同じく悪瞬間の繰り返しではないでしょうか。

心からの正直な分かち合いがない家庭、共に一緒に祈りが無い家庭はこうなりがちです。家庭内での孤独はある日、突然生じることはありません。長らく積み重ねてきた結果なのです。

そして雅歌書5章2節を見ると、**無関心の問題**が見えます。雅歌書5章2節の以下をみると、二人の関係に、そして会話に葛藤があることがわかります。花婿が夜遅く帰って来ます。花嫁は寝ています。待ち疲れて眠ったのではなく、おそらく眠れない苦しみの中で寝ていることを本文の流れをとおして知ることができます。**寝ていても眠れてない、ソロモンの妻の心の寂しさを推し量ることができます。**前の文脈から見ると、花婿はおそらく友達と夜遅くまでパーティをして帰って来たようです。**花婿が帰って来たのに、主人を迎えたくない怒りと孤独が女の心にはありました。**夫ソロモンが戸をたたき続けていたので、奥さんが結局戸を開けたら、今度は主人が去って行ってしまいました。**愛の反対の意味は憎しみ、恨みではなく、無関心であることを忘れないで下さい。**

(ですから、喧嘩することも愛情があるからかも知れません。良く喧嘩する方法もいつか一緒に学びたいと願いますが)

とっても感謝なことに今日の本文に出て来る、**この夫婦は彼らの関係における危機をほっておかないようにと決心したことです。**もう一度今日の**本文15節**に戻ると、“**私たちのために**”と書かれています。それは私のためでも、あなたのためだけでもありません。それは私たちのためにです。私たちの家族のために、私たちの共同体のために、私たちの教会のためにもあつてはまることでしょう。そして、**私たちの愛するぶどう畑を揺さ振るこの小狐らを一緒に捕まえよう**ということです。**みなさんもこのような決心をしようではありませんか。**

妻に夫に、お互いに、親にこう聞いて見ませんか。“あなたは最近寂しくないの？”いくら広い家に住んでも、給料が多くて、仕事もうまく行っても**家族が無関心で、寂しく家族が感じているなら、今みなさんの家を揺さ振ろうとする小狐が入って来ている警戒のサインとして受け止めないといけません。**“あんたがやってよ！、あんたがよくやれば！”と言わないで下さい。

家庭は私たちのためにともに戦い、守り、支えなければなりません！誰一人のせいや問題ではなく、共に神の豊かな実—愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制—が結ばれて行くように一緒に協力して行かなければなりません。我らの牧場も、主の教会も同じではありませんか。

ある先生が神様にも不可能なことがあるというメッセージをされました。つまり、**私たちの神様は不可能なことが何一つありませんが、唯一、自ら変えようと、変わろうとしない人々は神様もどうしようもできないということです。**

“私たちの家庭が今のままでいいのですか。私たちの夫婦関係は今のままで大丈夫でしょうか。親子関係はこのままで大丈夫でしょうか。”という振り返り、新たに決心し、実践して行く全CPC神の家族、家庭となりますように切にお祈りいたします。神が私たちの家庭をもう一度新たにしてくださるよう祈りましょう。

私たちの家族、夫婦共に主をみあげ、改めて愛を現わし続ける家庭となるように祈り、決心する時間となるように祝福します。愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰のみなさんの家庭にも美しい愛の花が咲き、豊かな実を結ばれる潤うされたぶどう畑となりますように！そしてそれを守っていくみなさんとなりますよう主イエスキリストの御名によって祝福します。

「主は絶えずあなたを導いて、焼けつく土地(とち)でも食欲を満たし、骨を強くする。あなたは、潤された園のように、水のかれな源のようになる。(イザヤ書58章11節)」アーメン！

